

3 愛防第 68 号
令和 3 年 10 月 29 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第 5 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和 3 年度 病虫害発生予察注意報（第 5 号）

令和 3 年 10 月 29 日
愛 媛 県

病虫害名 ハダニ類

対象作物 イチゴ

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 10 月中旬の定点調査における寄生株率は 19.62%と平年（7.61%）に比べ約 2.6 倍高くなっている（図 1）。
- (2) 発生はナミハダニが主体となっている。
- (3) 気象予報では、気温は平年並か高いとされており、発生にやや助長的である。

4 防除上の注意

- (1) ハダニ類は葉裏等の薬液のかかりにくい場所に寄生することが多いため、散布ムラに注意し、丁寧に散布する。
- (2) ナミハダニに対しては、圃場や薬剤の使用来歴によって感受性が異なるなど、有効薬剤が限定されているので、薬剤の選択に注意する（表 1， 2）。
- (3) 低密度からの防除が重要となるので、圃場観察により早期発見、早期防除に努める。
- (4) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチや天敵となるカブリダニ類等への影響を考慮する（表 3）。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤（表 4）を含め、系統の異なる薬剤によるローテーション使用に努め、薬剤散布後は防除効果の確認を行う。

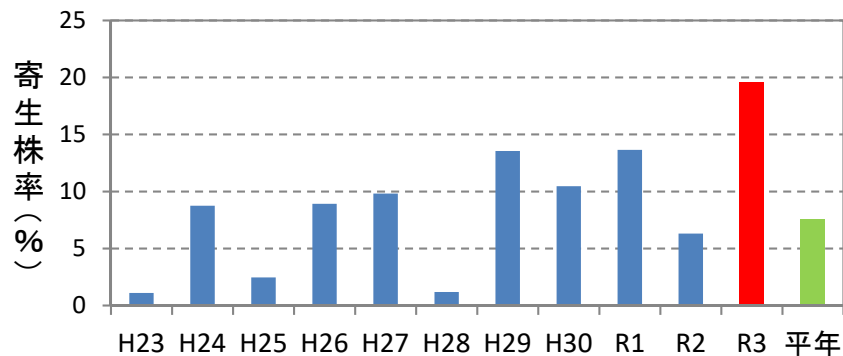


図1 定点調査(10月)におけるハダニ類の年次別の発生推移

表1 イチゴに寄生するナミハダニ(成虫)の薬剤感受性検定結果(R1)

薬剤名	倍数	殺成虫効果(補正死虫率(%))									
		新居浜市	西条市	東温市	東温市	大洲市	大洲市	大洲市	西予市	西予市	宇和島市
マイトコーネフロアブル	1,000	100	100	100	100	100	88.3	100	100	100	100
ダニサラバフロアブル	1,000	11.0	-	3.9	0.3	0.4	9.1	10.5	0	5.6	0
スターマイトフロアブル	2,000	12.1	18.2	0	28.2	20.3	0	21.5	28.9	0	5.0
カネマイトフロアブル	1,000	100	100	60.6	94.0	89.2	25.6	75.6	100	100	93.4
コロマイト乳剤	1,000	35.1	57.4	0.2	11.0	93.7	73.1	78.5	21.1	35.7	83.3
アフーム乳剤	2,000	39.1	95.3	33.5	49.7	97.7	61.2	87.0	100	29.4	61.0
ダブルフェースフロアブル	2,000	81.5	100	25.5	33.2	63.2	17.4	46.3	86.6	36.8	100
ダニオーテフロアブル	2,000	100	100	84.0	100.0	100	100	-	100	100	-
グレーシア乳剤	2,000	100	100	100	94.0	-	100	-	100	100	-

1) 農林水産研究所実施

2) 表中の数値はハウス単位で採集したハダニの結果であり、各地域の感受性を反映しているものではない。

表2 イチゴに寄生するナミハダニ(卵)の薬剤感受性検定結果(R1)

薬剤名	倍数	殺卵効果(補正殺卵率(%))									
		新居浜市	西条市	東温市	東温市	大洲市	大洲市	大洲市	西予市	西予市	宇和島市
マイトコーネフロアブル	1,000	5.3	21.6	1.8	4.3	13.3	0.5	-	23.4	20.4	2.6
ダニサラバフロアブル	1,000	26.1	47.0	21.6	0	13.0	0	-	3.2	60.2	26.0
スターマイトフロアブル	2,000	97.9	100	54.1	81.1	87.5	19.8	-	45.6	100	70.6
カネマイトフロアブル	1,000	98.3	100	70.3	99.5	100	100	-	100	100	73.6
コロマイト乳剤	1,000	57.1	98.7	2.7	30.8	31.8	55.2	-	36.8	53.2	16.0
コテツフロアブル	2,000	87.8	87.7	97.1	99.4	100	100	-	46.5	59.4	92.1
ダブルフェースフロアブル	2,000	77.9	100	65.6	56.7	94.8	40.8	-	73.2	100	43.9
ダニオーテフロアブル	2,000	100	100	100	100	100	100	100	100	100	-
グレーシア乳剤	2,000	76.9	97.6	83.5	78.2	95.6	74.8	92.2	78.9	85.1	-

1) 農林水産研究所実施

2) 表中の数値はハウス単位で採集したハダニの結果であり、各地域の感受性を反映しているものではない。

表3 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤(定植期以降)

薬剤名	農薬分類 (IRAC)	希釈倍率	収穫前日数 /使用回数	ミツバチへの 影響	天敵に対する影響	
					ミヤコカブリダニ	チリカブリダニ
マイトコーネフロアブル	20D	1,000倍	前日/2回	1日	0日	0日
コロマイト乳剤	6	2,000倍	前日/2回	1日	7日	7日
アフーム乳剤	6	2,000倍	前日/2回	2日	7日	7日
コテツフロアブル	13	2,000倍	前日/2回	10日	14日	14日
ダブルフェースフロアブル	25A+21A	2,000倍	前日/1回	1日	14日	14日以上
ダニオーテフロアブル	-	2,000倍	前日/2回	影響なし	影響なし	影響なし
ダニコングフロアブル	25B	3,000倍	前日/1回	1日	0日	0日
グレーシア乳剤	30	2,000倍	前日/2回	1日	100日以上	強い影響

1) 天敵に対する影響は、農薬メーカー技術資料等から引用。

2) 表中の影響の程度及び期間は目安であり、散布時の気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化する。

3) ダニオーテフロアブルは銅剤との混用及び近接散布で防除効果の低下する恐れがあるので注意する。

表4 気門封鎖型農薬の使用法(定植期以降)

薬剤名	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数	天敵類への影響
アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1,000~3,000倍	収穫前日まで	-	・虫体に散布液が接触すると死亡率は高まる。 ・ミヤコカブリダニよりもチリカブリダニの影響が大きい。 ・散布液の乾燥後(天敵放飼前の使用)では影響がほとんどない。
エコピタ液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-	
粘着くん液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-	
ムシラップ	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-	
サフオイル乳剤	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-	
フーモン	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	1,000倍	収穫前日まで	-	
サンクリスタル乳剤	ハダニ類、うどんこ病	300~600倍	収穫前日まで	-	

- 1) 散布液がハダニ類に直接かからないと効果がないため、ムラなく散布液が掛かるよう葉の表裏に丁寧に散布する。
- 2) 殺卵効果がなく(サフオイル乳剤を除く)、残効性がないため、高温時など増殖が旺盛な時期には、5~7日程度の間隔での連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。
- 3) 夏期高温時など薬害が生じやすい条件では使用を避ける。
- 4) 薬害が発生する恐れがあるため、初めて使用する品種では試しがけを行う。
- 5) 展着剤の加用は必要ない。
- 6) アカリタッチ乳剤は果実への薬害軽減のため使用倍数は2,000~3,000倍とする。なお、「あまおとめ」には使用しない(薬害)。
- 7) サンクリスタル乳剤の完熟状態での使用は品種により黒ずむ場合があるので完熟となる前までに散布する。



写真1 ナミハダニの形態(成虫と卵)



写真2 ハダニ類による被害葉(左:初期寄生の症状 右:多発した葉裏の症状)